

【オプトアウト文書】

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針第8－1－(2)－ア－(イ)－①に基づく公表

研究課題名

東京都内における性感染症起因菌の遺伝子解析

研究の対象

感染症発生病動向調査に基づく性感染症検査等において当センターに搬入された臨床検体のうち、性器クラミジアあるいはマイコプラズマ・ジェニタリウム遺伝子が陽性となった検体について、各陽性となった病原体のゲノムデータの取得と分子疫学解析を実施する

研究の目的

性感染症の急激な感染拡大や薬剤耐性株の蔓延が問題となっており、流行株の探知や感染経路の特定のための分子疫学解析がこれまで以上に求められる状況となってきた。また、薬剤耐性関連変異の保有状況のデータは、適切な治療薬を判断するための指標となり、蔓延防止対策に重要である。本研究では東京都内で伝播する性感染症病原体（性器クラミジア、マイコプラズマ・ジェニタリウム）を対象とした病原体ゲノム解析を実施し、同病原体に対する高解像度の遺伝子型別、薬剤耐性変異の探索・特定を行う。得られた結果は、流行株の把握や薬剤耐性変異を検出する遺伝子検査法の構築などをはじめとした、予防・治療に資する有用な情報の提供に活用する。

研究期間

令和7年度から令和8年度まで

研究に用いる試料・情報の項目（種類）

- ①平成26年4月～令和7年3月の間に感染症発生病動向調査事業において性感染症定点医療機関から性器クラミジアの遺伝子検査を目的に健康安全研究センターに搬入され、性器クラミジア遺伝子陽性となった臨床検体（尿、陰部擦過物）、およびそれを提供された方の情報（性別、年齢、症状、治療歴）
- ②平成30年4月～令和7年3月の間に国立国際医療研究センターにて性器クラミジア、マイコプラズマ・ジェニタリウムの遺伝子解析を目的に採取し、健康安全研究センターに搬入された臨床検体（尿、陰部擦過物）、およびそれを提供された方の情報（性別、年齢、症状、治療歴）

外部への情報の提供

外部への個人情報の提供は行いません。

利用する者の範囲（共同研究機関の名称及び研究者の氏名）

国立国際医療センター 水島大輔、安藤尚克

研究機関の名称及び研究機関の長

東京都健康安全研究センター

吉村 和久

研究責任者の所属・氏名

東京都健康安全研究センター微生物部病原細菌研究科

久保田 寛顕

オプトアウト ※

本研究に、研究対象となるご本人の情報を使用してほしくない場合は、以下の問い合わせ先に令和7年12月末日までにご連絡ください。ただし、ご連絡の時点で研究成果が公表されていた際は、これを破棄することができない場合がありますのでご了承ください。

オプトアウトの方法

東京都健康安全研究センター健康危機管理情報課研究調整担当宛てに「保有個人データの研究仕様の停止申請」を提出してください。

S0000786@section.metro.tokyo.jp

※ オプトアウトとは、研究対象者が識別される試料・情報を当該研究に用いること（他の研究機関への提供を含む。）について、研究対象者が拒否する機会を保障することです。